

第3回 下小岩地域 小学校統合に向けた合同会議 議事録（要旨）

【日 時】

令和3年3月11日（木）19時00分～19時55分

【場 所】

下小岩小学校 体育館

【主な内容】

1 統合に係る諸課題について

- ・校名や通学区域について優先して検討を進めていく。
- ・学用品・校章・校歌は次回以降優先順位をつけながら、一定の方針を固めていきたい。

2 校名の検討について

- ・校名の検討について電話での聞き取りを行った結果、大きく分けて「下小岩小にする案」、「新校名にする案」、「その他」の3つの意見があった。
- ・本日の会で改めて意見交換を行いたい。

3 35人学級導入について

- ・35人学級を考慮した上で、下小岩小と下小岩第二小の児童数・学級数の推計を計算したところ、令和5年度では16学級、令和8年度では19学級の見込みとなった。
- ・新校舎の設計では予定していた教室数の見直しと転用可能教室の活用を視野に入れ、対応できる学校づくりを行っていきたいと考えている。

4 通学区域について

- ・統合後は現在の下小岩小、下小岩第二小の通学区域を合わせた形となる。
- ・令和5年4月から令和7年3月までの仮校舎期間については、最も離れたところで直線距離700mとなる。
- ・令和7年4月以降、新校舎に移ってからは、最も離れたところで直線距離約1Kmとなる。
- ・この通学区域で合意が得られれば、次は通学路について検討を進めることとなる。

【意見交換内容】

- ・「下小岩」という地名は残してほしい。地域の皆が納得するには、在校生や保護者などに公募することも必要ではないかと考える。
- ・第一があるから第二があるわけで、統合されて第二が無くなるのは普通の考え方である。ただ、結果的に下小岩小と決まるにしても意見を聞くことが大事だと考える。

- ・校名にこだわるのは大人で、子どもはそれほど気にしていないと思う。しかし、下小岩小、下小岩第二小のどちらも地域のシンボルとして長くあり続けた。どちらかの校名が選ばれると、どうしても角が立ってしまう。よって、新しい校名で再出発の方が良いのではないか。
- ・この先も進めなくてはならない検討事項がたくさんある。なかなか決まらないのであれば、区から出してもらう方が良いと考える。
- ・「下小岩」という地名を残し、清新ふたば小のように、その後ろに何か新しい名前をつけるのはどうか。また、歴史を刻み、後世に残っていくものであるため、大人だけで決めず、公募で子ども達に決めてもらうのもいいのではないかと考える。
- ・もし下小岩〇〇小とする場合、公募対象を卒業生や地域住民ではなく、在校生や保護者に限定して決めてもらうのはどうか。対象者を増やすとどうしても時間や費用がかかってしまう。校名はなるべく早く決めて先に進めたい。
- ・下小岩小のものを全て引き継いだ場合、例えば、校歌に関して言えば、下小岩第二小の児童がなかなか歌えなかったりするかもしれない。学用品については、両校にどんな差があるかなどの心配が生じるのではないだろうか。児童への配慮はもちろん、先生方にも配慮していただき、統合がスムーズにいくよう適切に対応していただきたい。
- ・これまでの伝統とこれからのことを考えると、校名は地域で育った皆様で決めていただくことが大事だと考える。ただ、江戸川区は地域愛を目指しており、地域に愛着を持った子ども達が育つという点で考えると、「下小岩」という地域名が子ども達やこれまで関係してきた方々の愛着に繋がるのではと考える。そのため、「下小岩」という地名の付いた校名であってくれればと思う。2つの学校が1つになれば校歌も変わるだろうが、子ども達が成長しても愛着を持てるものになればと考える。
- ・考えることは2つある。1つ目は、在校生や卒業生、地域の方々のことを考え、「下小岩」という名前を残したほうが良いと考える。2つ目は、在校生を含めたこれからの未来の子ども達のことを考えてほしい。校名、校章、校歌を下小岩小のものにしてしまうと、下小岩第二小の児童は、自分たちの学校が無くなったという気持ちを持ってしまう。下小岩〇〇小でも歴史を踏まえて下小岩小でも構わないが、校章、校歌に関しては、両校が一緒に出発するという気持ちを子ども達が持てるよう考えてほしい。
- ・「下小岩」という地名は残したいと皆思っていると思う。「下小岩」というキーワードを残すことを条件に公募をして、下小岩〇〇小または下小岩小になるのか考えてもらえば良いのではないか。また、卒業生も対象にするという意見もあるが、在校生や入学予定の児童など人数を絞り、公募で決めてはどうか。

- ・「下小岩」という名前にこだわる必要はないと思う。小岩地域は、東西南北、上中下で小岩の地名があるので、こだわるとしたら、「小岩」という地名にこだわって小岩〇〇小としたら良いのではないかと考える。
- ・十人十色なので様々な意見があり、ある程度候補を絞って話し合わないとこれ以上進まないのではないかと考える。この場で決めず、公募を通して意見を集約すればスムーズに進むのではないかと考える。
- ・校名の方針を検討しているかと思うが、決定はいつするのか。
⇒校名の方針検討は5月頃を目安に進めていきたいと考えている。校名の方針により校歌や校章など検討内容も変わってくるため、まずは校名についての意見交換をしているところである。(事務局)
- ・公募をする場合、5月まで2ヵ月程しかないが、この期間に決定は可能か。
⇒校名案決定は5月を目途に考えたいが、公募となると3~4ヵ月必要となり、令和3年9月頃までかかることが想定される。行政側の手続き上、校名決定後には条例改正を行うが、令和5年4月の統合より前に、区議会に諮ることで校名が正式決定となる。(事務局)
- ・公募となった場合、具体的にどのような方法で募集をかけるのか。例えば、在籍している児童、保護者に限定ができるのであれば学校を経由してアンケートをまとめることができるが、その方法であったとしても3~4ヵ月もの時間がかかるのか。
⇒対象者を限定すれば期間が短縮できると考える。区が今まで行った事例としては2つある。まず1つ目は、清新ふたば小の事例であり、対象を在校生や保護者に配布するだけでなく、清新町の各自治会・幼稚園・保育園に募集案内を掲示するなど地域在住者にまで広げて公募を行った。その後、合同会議にて複数候補まで選定し、最終的に教育委員会にて決定した。また、2つ目の事例は、小松川一中、小松川三中であるが、対象は清新ふたば小と同様に在校生や保護者、地域在住者とし、紙面とQRコードを使い公募を行った。その中から合同会議内で5つに絞り込み、教育委員会で決定した。区外の事例を見ると、これ以上に広げるやり方も縮めるやり方もあり、幅広い選択肢がある。(事務局)
- ・この会議の場では最終候補を出すところまでで、決定まで行わないという認識で良いか。
⇒過去の公募事例として、小松川中の校名を決定した際には、前提として票数で決めるものではないと事前に取り決めをした。合同会議の場では、集約した候補について意見交換を行い、絞り込みを行った経緯がある。そのため、この会議では最終候補案までを決めていただきたいと考えている。(事務局)

- ・校名の方針検討を今行っていると思うが、この会議で最終的にどこまで決めるのか。
⇒今回は、校名を決めるというよりも校名に対する想いやご意見を出していただくことが主旨である。公募という方法が皆様の共通のご意見であると認識しているが、その内容をベースとして、方法について事務局で検討し、資料としてご提示したい。また、次回その資料を基にご意見をお聞かせいただければと思う。方針案については、「下小岩」という地名を残して公募するのか、それ以外の案でいくかなど、複数案をお出しすることになると思うが、それぞれについて皆様からご意見を頂戴できればと考える。(事務局)

- ・通学区域について事務局より説明したが、それについてご意見などがあればお伺いしたい。(事務局)
⇒統合後、両校合わせた通学区域になることについては、周辺学校の通学区域への影響を考えると妥当であると感じている。統合後の通学距離が一番遠いところで 1.04 km であったが、低学年の児童にとっては遠いのではという話もある。しかし、標準としている距離の範囲内であることから問題ないのではないかと考える。今後、通学路を決定していく際には安全に学校へ通えるよう一緒に考えていきたい。

- ・通学距離の規定の話が出たので、参考としてお話す。通学路の範囲は、小学校が概ね 4km 以内、中学校が概ね 6km 以内が適正という法令上の規定がある。本区の場合、学校選択制において通学区域外の学校を選択することのできる条件が、自宅から学校までの距離が直線距離で 1.2km 以内としており、小学校の通学路の範囲もこれに準ずるものとしている。(事務局)
⇒それでは、通学区域についてはこの会議で決定とし、来年度保護者の皆様に周知していきたいと思う。(事務局)

以上